

中学生の考える、ソーシャル・アクションとは？豊かさとは？

氏名：松下 直樹

担当教科：社会科

時間数：11時間

学校名：愛光中学・高等学校

実践教科：社会科（地理的分野）および人権LHR

対象学年：中学1年生

人数：220名

【1】単元のテーマ・目標

- ・チャンパサック県立病院を通して、ラオスが抱える課題を自分たちの目で見つめ、その課題の解決に向けて、自分たちのアクションプランを構想し、海外協力隊（以下、JOCV）に提案する。
- ・ドンコー村の暮らしと自分の暮らしを比較しながら、豊かさとは何かについて、自分なりの考えをつくる。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度	・難題に対しても他者と協働しながら粘り強く取り組む。
（イ）思考・判断・表現	・シンキングツールなどの思考ツールを活用して思考を整理しながら、アイデアやビジョンを作る。
（ウ）技能	・学びの過程でタブレットなどの ICT 機器を的確に活用する。
（エ）知識・理解	・ラオスの抱える課題や、村の暮らしのようすなどを知る。

【3】単元設定の理由

<生徒観>

教師海外研修の出発前、生徒たちに「ラオスと聞いて思い浮かぶことは何か」というアンケートを実施した。回答をテキストマイニング分析したところ、ラオスと最も共起の程度が強かったのが「どこ」であった。また、実践の1時間目の授業で「SDGsを知っているか」と問うたところ、「知らない」と答えた生徒が全体の9割を超えた。実践が始まった当初の生徒たちにとって、ラオスやSDGsは遠い存在だったようである。

<教材観>

新学習指導要領では、探究学習や探究的な活動を取り入れた学びがこれまで以上に重視される。実践では、中学校「総合的な学習の時間」（平成29年告示）を想定した単元構成で、生徒たちは、ラオスが抱える課題に対してソーシャル・アクションを提案したり、豊かさについて考えたりすることができる、ESDに資する教材づくりを指向する。

<指導観>

「教師に指示されている限り僕らは何も学んでいない」。これは、授業者の指導観の根底である。決して、生徒たちには教師からの指示や答えを待つだけの受け身の人があって欲しくはない。自分たちで考え議論を重ねながら、アイデアを生み出すことや、ビジョン・ルールを形成する力を存分に培って欲しい。何よりこうした学びの楽しさを知って欲しい。

【4】展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「SDGsとは何か」 ・ 地域的枠組みを考慮して、SDGsの目標、それぞれについて重要性を考える	(1) ロイロノート・スクールを使い、SDGsという言葉を知っていれば赤、知らなければ青のカードを提出する (2) SDGsとは何か、『未来を変える目標—SDGs アイデアブック』から作成した資料をもとに少しずつ理解する (3) 開発途上国と地元それぞれについて、SDGsの17の目標を重要度の高い順に、ダイヤモンドランキングを使い、ランク付けする (4) 開発途上国と地元のランキングとを比較し、ランク付けの理由などをグループで共有する	・ タブレット ・ 『未来を変える目標—SDGs アイデアブック』
2	「チャンパサック県立病院からみえる課題」 ・ フォトランゲージを通して、ラオスの課題を発見する	(1) チャンパサック県立病院内で撮影された、グループごとに異なる11枚の写真にタイトルと簡単な解説文を付ける (2) グループごとに紹介し、クラス全体で共有する	・ タブレット ・ チャンパサック県立病院内の写真（JOCV 吉田さん提供） ・ ポストイット付箋 ・ A3用紙 ・ ブロッキー
3	「チャンパサック県立病院からみえる課題の整理」 ・ メールの内容を踏まえ課題を再発見し、整理する	(1) JOCV吉田さんからのメールの内容を確認する (2) メールの内容をもとに、病院の抱えている課題・ラオスの課題について、読み取れること、考えられることを付箋に書き出す (3) グループで、出揃ったアイデア（付箋）をウェビングとベン図を使い、SDGsの観点でグループピングする →ロイロノート・スクールおよび、Googleドキュメント・Googleスライドを使い、グループのウェビングおよびベン図を完成する	・ タブレット ・ メール（JOCV 吉田さん提供） ・ ポストイット付箋 ・ ポストイット付箋 ・ イーゼルパッド ・ ブロッキー
4	「チャンパサック県立病院からみえる課題の整理」 ・ どの課題の解決に取り組むか決定する	【設定：2年間の任期でチャンパサック県立病院に派遣されたJOCVの看護師】 (1) 前時にグループで挙げた課題について、座標軸を使い、解決に向けた実現の可能性を探る (2) グループで、解決に向けて取り組む課題を1つ選定する →ロイロノート・スクールおよび、Googleドキュメント・Googleスライドを使い、グループの座標軸を完成する	・ タブレット ・ ポストイット付箋 ・ ポストイット付箋 ・ イーゼルパッド ・ ブロッキー
4・5	「チャンパサック県立病院からみえる課題の原因分析」 ・ 選定した課題の原因を分析する	(1) くまでチャート（ロジックツリー）を使い、原因を細部まで分析する →ロイロノート・スクールおよび、Googleドキュメント・Googleスライドを使い、グループのくまでチャートを完成する	・ タブレット ・ ポストイット付箋

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
5・6	<p>「チャンパサック県立病院からみえる課題の解決策の構想・提案」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決に向けたアイデアを練り、JOCV 吉田さんに提案する 	<p>(1) 前時のグループでの原因分析を踏まえて、どこに課題解決の糸口を見出すか考え、ステップチャートで課題をどう解決していくか論展開を考えながら、プロット図でその過程で現状がどう変化するか経過を示す</p> <p>(2) これまでを受けて、グループでストーリーボードを作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> →ロイロノート・スクールおよび、Googleドキュメント・Googleスライドを使い、グループのストーリーボードを完成する →ロイロノート・スクールを使い、グループで作成したストーリーボードを提出し、JOCV吉田さんからフィードバックを受ける →ロイロノート・スクールを使い、リフレクションシートを提出する 	
7	<p>「JOCV 吉田さんから学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JOCV 吉田さんがチャンパサック県立病院に赴任して、これまでどのようなことをして来たか、あるいはこれからしようと考えているのか、自分たちの提案したストーリーボードと比較しながら学ぶ ・JOCV 吉田さんの日々の成功や失敗談、葛藤などをありのままに話してもらうことで、自分の将来を考えるきっかけをほんの少しつかむ 	<p>(1) JOCV吉田さんによる講演</p> <p>(2) ZOOMを使い、質疑応答など交流</p> <p>(3) ロイロノート・スクールで、JOCV吉田さんに感想を提出する</p>	・タブレット
8～10	<p>「ソーシャル・アクションを考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生として、ラオスの病院あるいはラオスが抱える課題の解決に向けて、自分たちなりのアクションプランを構想し、提案する 	<p>(1) ロイロノート・スクールを使い、4時間目に作成したグループの座標軸を、ダイヤモンドランキングに切り替え、「何とかしたいと思うこと」の順にランキング付けする</p> <p>(2) ランキングをもとに、グループで解決に向けて取り組む最も何とかしたいと思う課題を1つ選定する</p> <p>(3) グループで選定した課題に対して、『ソーシャル・アクション・ハンドブッカーテーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア』のアクションの分類を参考に、中学生のあなたたちが考えるソーシャル・アクションのアイデアを、付箋やGoogleドキュメントを使って書き出す</p> <p>(4) SDGsを参考に、バックキャスト思考で、「課題がある現状がどうなって欲しいか」というビジョンを描きながら、グループでのソーシャル・アクションを、Xチャートを使いまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット ・ポストイット付箋 ・『ソーシャル・アクション ハンドブッカーテーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア』

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		(5) 前時までを受けて、グループでアイデアシートを作成する →ロイロノート・スクールおよび、Googleドキュメント・Googleスライドを使い、グループのアイデアシートを完成する →ロイロノート・スクールを使い、グループで作成したアイデアシートを提出する →Googleフォームを使い、授業アンケートに回答する	
11 本時	「豊かさとは何か」 ・自分にとって豊かさとは何かを考える	(1) ドンコー村のようすを知る (2) ジョン・フリードマンによる貧困の「力の剥奪」理論を参考にレーダーチャートを使い、ドンコー村の人たちの豊かさについて、8つの項目について、どの程度整っているか4段階で評価する (3) ロイロノート・スクールで提出されたレーダーチャートをいくつか紹介しながら、全体で共有する (4) ドンコー村で出家した少年たちについて知る (5) 同様のレーダーチャートを使い、自分の豊かさについて、8つの項目について、どの程度整っているか4段階で評価する (6) ドンコー村のレーダーチャートと、自分のレーダーチャート比較し、改めて、豊かさとは何か考える →「あなたが考える豊かさとは何かという小レポート(800~1,200字)をGoogleドキュメントで作成し、Google Classroomで提出する	・タブレット ・ステイ中に撮影した写真や動画 ・『開発教育教材 豊かさと開発—Development for the Future』

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	本時の目標：自分にとって、豊かさとは何か、考える		
展開 (35分)	○本時の目標を確認する ○ドンコー村のようすを知る	・これまでの10時間のまとめとしてこの授業を行うことを伝える ・Google Earthでドンコー村がメコン川の中州に位置することを紹介する ・ドンコー村の人口および平均年収を紹介する ・2日間のホームステイ経験を授業者の主観が入らないように脚色せずありのまま紹介する	・ステイ中に撮影した写真や動画

	<p>○ドンコー村の人たちの豊かさを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート・スクールを使い、理由を考えながらレーダーチャートを個人で作成する ・個人で作成したレーダーチャートをグループ内で共有し、作成したレーダーチャートについて、意見を交換する <p>○ドンコー村で出家した少年たちのことを知る</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①バクセー国際空港へ ②メコン川を渡る ③村の子どもたちと遊ぶ ④子どもたちによる村案内 ⑤パーシー ⑥ステイ先の家 ⑦翌朝 ⑧村の生業 ⑨出発前 <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート・スクールで提出されたレーダーチャートからいくつか取り上げて、ドンコー村の豊かさについて全体で共有する ・3枚の写真を見せて、「違和感がないか」問いかける ①子供たちとした大縄跳び ②大縄跳びのようすをスマートフォンで撮影する2人の少年 ③レセプションセンターの外からこちらのようすを見つめる2人の少年 ・2人の少年たちは13歳、出家して1年目の僧侶であることを伝える ・2人の少年に通訳者を通じて「輪に入らないのか」と聞いたところ、「女性がいると輪に入っちゃだめなんだ、そういう決まりだから」という答えが返ってきたことを伝える ・2人の少年は、自分の意思とは裏腹に、家庭が貧しかったり、親がいなかったりという理由で僧侶になったことを伝える ・出家すれば、寝食だけでなく教育も保証されることを伝える ・「この少年たちの豊かさとは」と問いかける ・これまでの10時間の中でとくに印象に残った生徒たちの言葉を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョン・フリードマンによる貧困の「力の剥奪」理論を参考にしたレーダーチャート（出典：『開発教育教材 豊かさの開発—Development for the Future』） ・ステイ中に撮影した写真
--	--	---	--

<p>まとめ (10分)</p>	<p>○自分の豊かさを考える ・ロイロノート・スクールを使い、理由を考えながらレーダーチャートを個人で作成する</p>	<p>①自分たちが、こうしたい・ああしたいと思って、今考えているソーシャル・アクションって、ラオスの人たちは、どれくらい望んでいるのだろう…日本(先進国)的な考え方を押し付けるだけになっていないか ②かわいそう…結局、カネかよ…ごめん撤回する、なんか違うんじゃないか</p> <p>・ドンコー村の豊かさを考えたレーダーチャートをもう一度確認するよう伝える ・「豊かさの概念は、1人1人違うのではないか」と問いかける</p>	<p>・ジョン・フリードマンによる貧困の「力の剥奪」理論を参考にしたレーダーチャート(出典:『開発教育教材 豊かさと開発—Development for the Future』)</p>
----------------------	---	---	---

【授業実践の様子】



ステイ経験の紹介



レーダーチャートの作成



レーダーチャートの紹介

【6】本時の振り返り

- ・生徒たちが抱きがちな「先進国は開発途上国より豊かである」というステレオタイプを払拭することに、少なからず寄与できたかもしれない。
- ・生徒たちは、豊かさの概念は、人によって異なり、それらは相互に承認・尊重されるべきもので、決して剥奪されてはならないものであると、改めて考えることができたかもしれない。

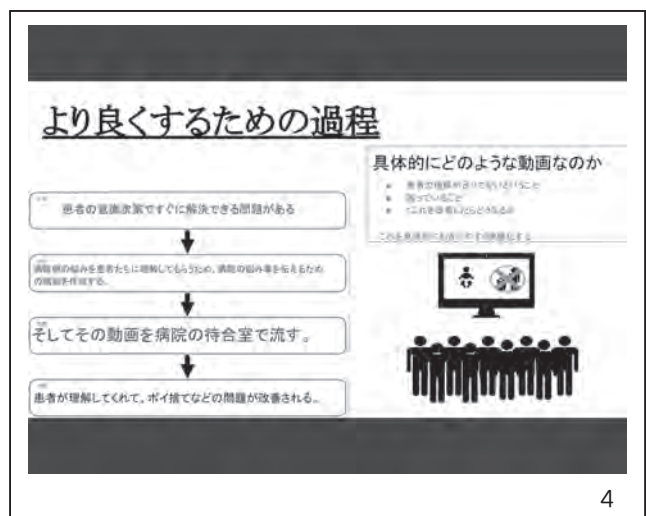
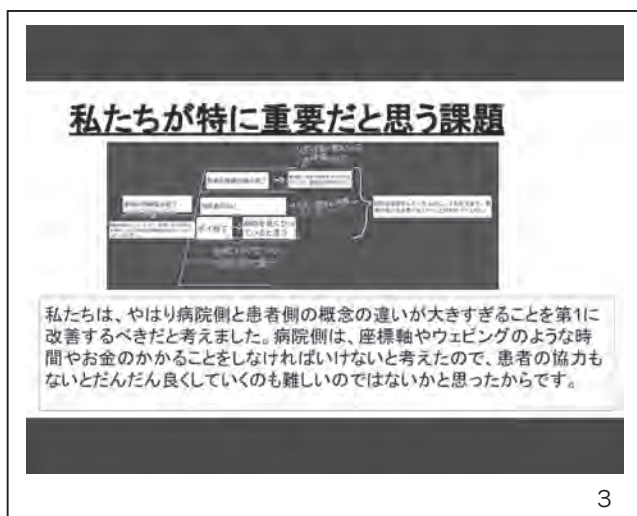
【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

○3時間目のリフレクションシートより抜粋

チャンパサック県立病院を通してラオスの医療が抱える課題を目の当たりにした生徒たちからは、現実を直視できないようすも見受けられた。

- ・「チャンパサック県立病院と、日本の病院との違いに驚いた。ペアンを放っていたり、ベッド・病室の不足など、日本ではありえないようなことが県立病院で行われてしまっていることに驚いた。他の病院はどうなのか気になってしまった。もっとひどいのかも…」
- ・「11枚の写真の中でほとんどが残酷な病院とは思えない写真ばかりで、みるのも辛いくらいの写真も多くあり、自分たちの班では古く汚れていたトイレの写真で予想通り個数も少なく、このようなものが病院にあることから、いかに自分たちが恵まれた環境の中で生活していたということを感じ、どうして、世界は平等ではないのだろうと思いました」
- ・「自分が思ったよりラオスの現実が酷くてビックリしました。他の国から届いた医療器具を使わないことが理解できませんでした。でも、街で1番の病院なのにとっても貧しく病院の設備が全然揃ってなくて日本の暮らしからは全く想像出来ませんでした」
- ・「メスの使い回しは非常に衛生面に問題があると思う。メスを使って手術を行うため、メスが汚かったら体全体に細菌が広がるのでは？と感じた。こんな状況は実際に見たいものではなかった」

○生徒たちが作成したストーリーボード例





5

○6時間目のリフレクションシートより抜粋

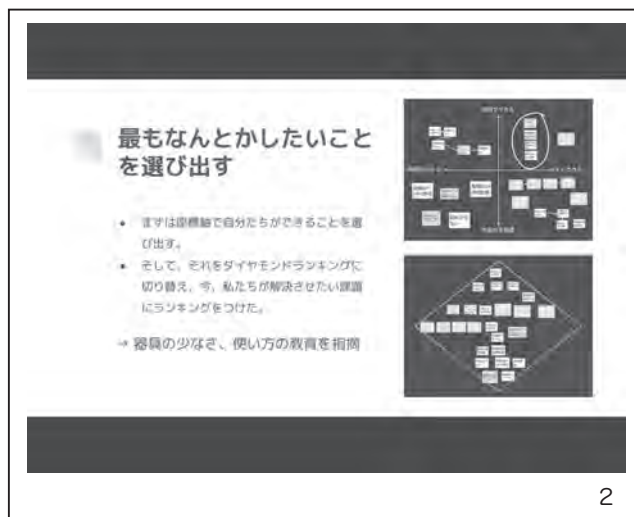
生徒たちはJOCVとして課題解決に向かうストーリーボードを作成する過程で、少しずつSDGsを意識しながら、ラオスの課題がある現状が変わることを望むようになってきた。

- ・「ラオスの病院の課題や実態を写真から読み取り、その原因を明確にし、解決策を考えた。病院の環境は日本の病院とは大違いで、予想よりもひどいなと感じた。日本と違ってお金がなかったり、衛生観念が違ったりして患者の健康にも影響が出ているのだと思った。そして、二年間の看護師の時間を想定して、私たちは、JICAの支援物資の問題について考えることにした。課題の解決に少しでも貢献できるように解決策を出して、そのプロセスなどを細かく考えた。今回考えた私たちの考えが実際に行われて、ラオスの病院、その環境が豊かになって誰もが幸せになれるようになってほしいと改めて感じ、もっとSDGs持続可能な開発目標を世界で達成するのに貢献したいと思った。また、自分たちの考えが国境を飛び越えてラオスの人々に届いて欲しいと強く思った」
- ・「何ていうか本当に協力隊員になれたような感じでやれて、良くないラオスの現状をより一層知ることができたと思う。今は病院内の問題をやっていて、答えのない答えを探して苦心しているが、病院の外で病院すら入れない人もいることを忘れてはいけないと思う。他にも『してあげる』ではなく対等に接してあげないといけないのではないかと授業中思うことがあるが、よくうまく表せない。ラオスの人々のために本気になって考えているのかと言われても自分を含めてどうなのだろうか？自己中ではいけないと思う」

○生徒たちが作成したアイデアシート例



1



2

ビジョン・目的

私たちは、医師が足りておらず、適切な治療が行われていない今の現状が、
 器具がたくさん用意され、清潔で誰もが安心出来る適切な治療を行えるように
 なって欲しい

というビジョンを掲げた。

そして、このビジョンが解決出来たら

「3.すべての人に健康と福祉を」と「10人や国の不平等をなくそう」
 が達成できるのではないかと考えた。



3

手段 ～私たちができること～

中学生の私たちができることは何か、ブ
 レストして、Xチャートにまとめた。



4

手段 ～私たちができること～

支援系 ～現場にアクション～

疫学の資金を募金する

↑

- ・ 学校・家などで呼びかける
- ・ 自らJICAの募金活動に参加する
- ・ 募金箱を設置する

5

手段 ～私たちができること～

コミュニティを作る系 ～操作りにアクション～

- ・ 看護師が正しく医療機器を使えるようにするために、ガイドラインを翻訳することの大切さを伝える
- ・ JICA現地医療機関に課題解決策を提案
- ・ ラオスの医療を改善する団体をつくる
- ・ そのような団体に入る
- ・ ラオスの病院には資金が足りないため、それを解決するために医療機器を交換する組合を作るように提案する

6

手段 ～私たちができること～

自分をソーシャルにする系 ～自分自身にアクション～

- ・ 「世界には医師が少なく適切な治療が行われていない病院(国)がたくさんある」ことを自らの声やポスター作りなどで広める。
- ・ イベントに行ったり、インターネットで調べて、JOCVのことや、ラオスそのものや、ラオスの今の現状を知る。
- ・ JICAに行って、様々な国の人と交流し、その国のことを知る。

7

手段 ～私たちができること～

仕組みを変える系 ～政策にアクション～

- ・ 国が医師の増産を出す
- ・ 資金を募やす
- ・ 医療を寄付する
- ・ ラオスの医療制度を改善する

↑

そのための意見や署名を集める

8

○10時間目の授業アンケートより抜粋

生徒たちは、ソーシャル・アクションについてのアイデアシートを作成する過程で、ラオスの課題はもちろん、グローバルあるいはローカルな課題に対して、「自分たちは何がしたいのか」「自分たちに何かできることはないのか」と、徐々にではあるが考えられるようになってきた。学びの自分ごと化とはこういうことなのかもしれない。

- ・ 「初めにラオスの中では大きい病院でもあれだけ不衛生で教育も行き届いていなかったため、特に物資を実習生などに見せてあげたいから使わないという考えに驚きました。また自分たちはその病院を変えることをとても簡単に考えすぎていたことを吉田さんの話を聞いてわかりました。そして、このラオスの課題を解決するのを考えたときに物資を集めたり学習環境を変えたりすることばかり考えて、日本化しようとしていたけど、それが正解なわけではないと考えた」

- ・「(省略)今ラオスではどんなことが起きているんだろう、そんなことを考えることが授業をしてからあります。ラオスだけではありません。他の国でも紛争やら難民やらいろんなことが起きています。そんな中で今自分が悠々と生活しているとなんだか申し訳なく思います。何でも自由に出来る自分達にとって今するのは何なのか少しでもいいから考えてみるのが大切だとも思いました」

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

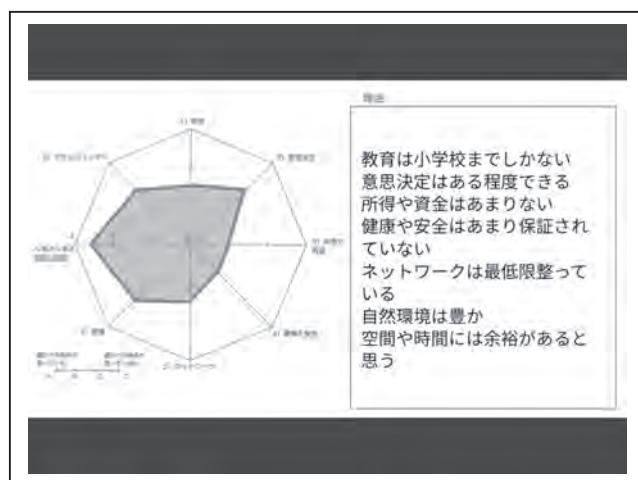
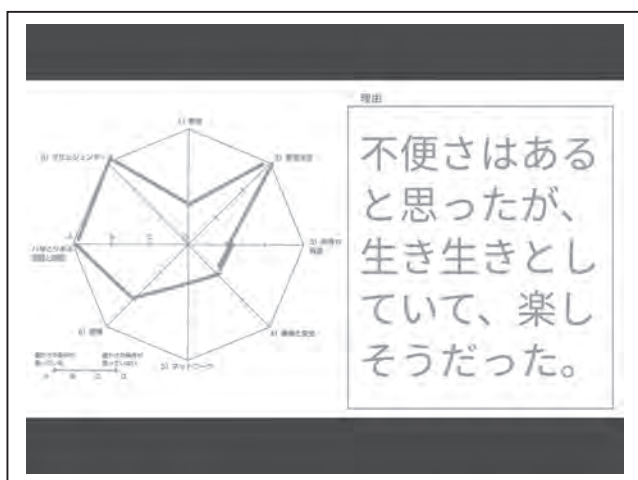
○7時間目の感想文より抜粋

JOCV吉田さんとの交流を通じて、生徒たちのなかには、国際協力やボランティア、医学などへ興味・関心を抱き始めたり、それを強固なものにしたりした者もいたようである。「自分の人生を自分で始める」きっかけを提供できたのかもしれない。

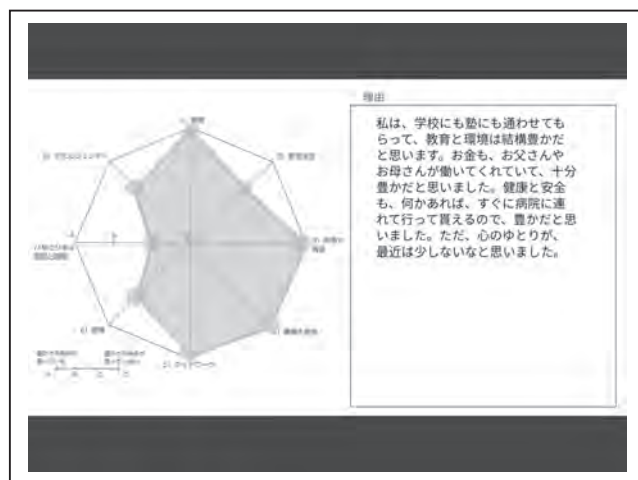
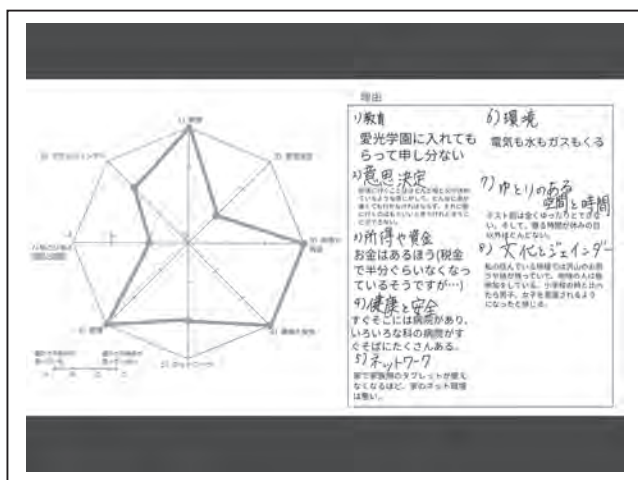
- ・「(省略)ぼくはボランティア系の仕事に興味があります。ボランティアに限らず、『人を助けられる／人のためになる』仕事に興味があります。なんとなくやってみたいなと思っていたのですが、あまり実感がわいていませんでした。しかし、この講演で、このような仕事では、指導やその強化が大事なんだと分かりました。仕事以外のことでも、このように人のためになることをして生きていこうと思います」

【途上国・異文化への意識の変容】

○11時間目の授業で作成したドンコー村の豊かさに関するレーダーチャート例



○11時間目の授業で作成した自分の豊かさに関するレーダーチャート例



豊かさとは何かと聞かれて一番に思いつくのはお金があることというイメージがあるが、本当にそうなのか。確かにお金は必要だが、お金だけ持っても豊かだとは言えないと思う。

私が考える豊かさとは、心が豊かであるということである。

私の従兄弟はジャパンハートの長期医師ボランティアだ。ジャパンハートとは、ミャンマー、カンボジア、ラオスを中心に「医療の届かないところに医療を届ける」ことを理念に、医療が届かない場所で失われてゆく「命」を一つでも多くつなぎとめるために活動している。この活動は皆が平等に医療を受けることができ、生まれてきてよかったと思える社会をめざしている。

ボランティア活動なので一銭もお金をもらっていない。それでも従兄弟は、自らの意志で活動に参加している。しかし、活動をしている中で得るものが大きいと言っている。これはどういうことなのか。

それはお金以上に得るものがあるからだろう。

1つ目はやりがいだ。

患者さんの心を救う医療がそこにはあり、患者さんの感謝、喜び、笑顔が力になるのだろう。

2つ目は技術だ。

実際にジャパンハートでは5日で59件の手術がおこなわれる。その中には、長い間病気をほったらかしにし、ひどく悪化していて日本では有り得ない様な症状の患者さんもいる。多くの症状に触れることにより、技術が身につくのだろう。

3つ目は対応力だ。

十分に設備が整ってない場所で、限られた時間の中で限られたものを使って、様々な症例に立ち向かうためには、臨機応変に動かなければならない。だから、対応力が身につくのだろう。人のためにやっているのだが結局は自分のためになり、日本に帰ってきたときに役に立つのだと思う。

心の豊かさはお金ではなく、人が人を想う気持ちで感じるのだと私は考える。

だから、私の従兄弟は日本から離れた海外で、しかも発展途上国で一銭ももらわずとも医療活動に励むことができているのだろう。

【8】自己評価

1. 苦勞した点

課題解決学習に一貫して取り組んだことで、終始、ラオスの課題にスポットが当たり続けてしまい、教師海外研修中に感じた「ラオスの良さ」や「ラオスらしさ」をなかなか紹介することが難しく、一歩間違えると生徒たちに、ラオスという国に対する偏った見方や考え方を抱かせかねなかった。

2. 改善点

生徒たちが作成したストーリーボードやアイデアシートを、発表する時間を確保できなかったことが大変悔やまれる。ポスターツアーなどの手法を取り入れて、生徒たちのプレゼンテーションを相互に評価し合う機会を提供すべきだった。

3. 成果が出た点

- ・教師海外研修前から意識していた、「教師が生徒に対して“ラオスを教える授業”ではなく、生徒たちが“ラオスで考える授業”」の実践に懸命に取り組むことができたと思う。
- ・ICTを積極的に活用したことで、ラオスと愛媛をつなぐ遠隔授業ができたことや、生徒の作成したストーリーボードやアイデアシートへ、JOCV吉田さんからフィードバックをもらうことができた。
- ・この単元を通じた生徒たちの学びを、JICAラオス事務所のFacebookページを通じて世界に発信することが叶った。

4. 備考

今回の研修を契機として、授業者は、開発教育のスタートラインに立った。今後は、授業実践にとどまることなく、いかにして本校をあげた取り組みにしてゆくか、生徒たちと次なるビジョンを描こう。

【参考資料】

<書籍>

- ・泉 貴久・梅村 松秀・福島 義和・池下 誠編2012.
『社会参画の授業づくりー持続可能な社会に向けて』 古今書院.
- ・一般社団法人 Think the Earth編2018. 『未来を変える目標ーSDGsアイデアブック』 紀伊國屋書店
- ・株式会社 アンド2018.
『ビジネスフレームワーク図鑑ーすぐ使える問題解決・アイデア発想ツール70』 翔泳社.
- ・株式会社 アンド2019.
『思考法図鑑ーひらめきを生む問題解決・アイデア発想のアプローチ60』 翔泳社.
- ・栗田佳代子・日本教育イノベーションセンター2017.
『「学びの場」を変えたいすべての人へ インタラクティブ・ティーチングーアクティブ・ラーニングを促す授業づくりー』 河合出版.
- ・黒上晴夫2019. 『ロイロノート・スクール シンキングツールを学ぶ』 株式会社 LoiLo.
- ・近藤 牧子・西 あい編2016. 『開発教育教材 豊かさと開発ーDevelopment for the Future』
特定非営利活動法人 開発教育協会 (DEAR) .
- ・佐宗邦威2019. 『直感と論理をつなぐ思考法ーVISION DRIVEN』 ダイアモンド社.
- ・ソーシャル・アクション ハンドブック作成チーム編2017.
『ソーシャル・アクション ハンドブッカーテーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア』 特定非営利活動法人 開発教育協会 (DEAR) .
- ・ダン・ロススタイン、ルース・サンタナ著、吉田新一郎訳 (2015)
『たった一つを変えるだけー教師も生徒も自立する「質問づくり」ー』 新評論.

<Webサイト>

- ・文部科学省「持続可能な開発のための教育 (ESD : Education for Sustainable Development)」
(<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>)
- ・文部科学省「中学校学習指導要領」 (平成29年告示)
(https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf)